最優秀賞「漱石の忘れもん」

三ツ木　茂

文豪夏目漱石岡山逗留の物語

小勝は、栄之助が岡山の電信局に勤めていた時に見初められて結婚。夫婦はその後東京で暮らしていましたが、栄之助が病死したため、小勝は円満離縁して岡山に帰郷。その後、金田村の岸本という医師と再婚したのでした。

小勝の実家は片岡家といいまして、いまの岡山県庁（岡山市北区内山下）南の旭川河畔の水之手と呼ばれる場所にありました。金之助は夏目家を代表して、小勝の再婚の祝いを述べに片岡家までやって来たといわれています。

夏目漱石岡山逗留の地　〔岡山市北区内山下〕

夏目漱石は明治25（1892）年の７月、亡くなった兄の嫁の小勝（かつ）の実家・片岡家（岡山市北区内山下）に１ヵ月ほど逗留した。逗留期間中の7月23日、24日には旭川氾濫により大洪水にみまわれた。現在は、片岡家跡地付近に石碑と案内板が立っている。また、近くには漱石の句が刻まれた句碑もある。

参考：池田武彦「漱石ゆかりの岡山びと」（『岡山の自然と文化』３７号）

片岡家跡地付近に案内板と石碑がある
案内看板「夏目漱石の岡山逗留」

夏目漱石の句が刻まれた石碑
「生きて仰ぐ 空の高さよ 赤蜻蛉」

夏目漱石訪問の地　〔岡山市東区金田〕

明治25年（1892）7月、東京帝国大学の学生であった夏目金之助（漱石）は、岡山に一ヵ月滞在した。目的は旧上道郡金田村の医師岸本昌平と再婚する義姉小勝の祝いのためであった。

岡山市東区金田にあった岸本家は絶家し、平成30年（2018）まで建物も一部残っていたが、新築住宅が建った。現在は、地元住民により「岡山市歴史のみちしるべ」や「漱石ロード」などが整備され、漱石の足跡を広く伝える活動が行われている。　**参考：『きび野』「ふるさとの想い出」１５２号（２０１９年初春号）**
１５４号（２０１９年夏号）

金田の「漱石ロード」

「漱石ロード」から岸本家跡を望む
２０１７年１２月撮影

優秀賞「夕凪から」

里 海 瓢 一

猫の多い島を独立国家に！？
祖母の野望とは･･･

真 鍋 島 〔笠岡市〕

振り返ると、眼下の海が遠くから染まり始めていた。真鍋島の集落は山を背にして北を向いているから夜明けは遅く夕暮れは早い。日の出も日の入りも海に見ることはなく、光源が背後にあるからか、海は淡く滲んだ独特の桜色になる。潮は凪いでいた。外洋しか知らない者が見れば湖だと見紛うかも知れないほど波は静かだ。時間の流れを微かと形容したくなる景色が瀬戸内のほかにあるだろうかとぼくは思う。

笠岡市の笠岡港から南、約31kmにある島で、島名は、真南辺の島、備中国小田郡の南端にある島という意味で、後に真鍋の字をあてたと考えられている。

港には石積みの堤防や、のどかな漁村の佇まいが多く残っており、岡山県のふるさと村に指定されている。

時間が止まったような風景や近年では「猫の島」としても知られている。

「NPO法人かさおか島づくり海社HP」より

写真提供　岡山県観光連盟

第十回　優秀賞「震える水」
第十二回優秀賞「硬い水」

畔 地 里 美

主人公富士男が働いていた鉱山
鉱山の町で過ごした子ども時代を描く

吉岡鉱山・遺構　〔高梁市成羽町〕

吉岡鉱山は住友と三菱の財閥形成、ベンガラ産業に大きく貢献しました。大同2年(807)銀山として始まり、応永10年(1403)ごろ銅山になったといわれていますが、戦国時代以前の歴史は謎のままです。石見銀山ともつながりのある鉱山ですが、鉱山名には変遷の歴史があり「吉岡」にも諸説があります。三菱商会は明治6年(1873)、吹屋小学校付近で操業を始め同26年(1893)、坂本に主要施設を移しました。岡山県最初の水力発電所を建てたのも吉岡鉱山です。笹畝坑道は見学施設として公開されていますが、坂本には坑道や選鉱場跡、トロッコを通すための拱渠、煙道、鉱滓煉瓦で造られたシックナーや沈殿池などの遺構があります。

解説 小西　伸彦氏

「震える水」より（第十回）

婿に入った先は、川上郡成羽町坂本（旧吹屋町）、ここには古くからの銅山があった。…

よくよく鉱夫の仕事をするように生まれついていたようだ。富士男は、村の男たちがするように、ここでも鉱夫として働き始めた。

経験と頑強な体軀がものをいい、富士男はたちまち頭角をあらわした。一級鉱夫として、給金も割高な額をもらえた。

鉱滓煉瓦で造られた沈殿池（右）とシックナー

選鉱場

貯水場

写真提供　小西　伸彦氏

「硬い水」より（第十二回）

広場周辺への立ち入りは危険だからと学校で禁じられていたが、私たちはしばしばそこへ登った。欠けた赤レンガや、煙道であったろう半壊したトンネルとか、円形の貯水場ががらんどうで放置されていた。周囲には校庭より広いドベ池があり、灰色の粘土が天気具合によってひび割れたり底なし沼に変貌する。黄土色の山肌は廃土を流した跡。その斜面が駱駝のこぶを並べたように見えるのは、雨水で溝が深く幾本も刻まれたため。風の吹きようで砂塵が舞えば、私たちには月光仮面ごっこの背景になった。

優秀賞「字隠し」

小 田 由 紀 子

架空の８つ目の島
島での生活を描く

笠 岡 諸 島 〔笠岡市〕

岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、瀬戸内海の中心に浮かぶ笠岡諸島は、大小31の島々からなっている。その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島で、島民の数は約１３００人で、基幹産業も石材業から漁業・観光業など、それぞれに特色がある島が連なっている。

「NPO法人かさおか島づくり海社HP」より

この物語は、陸地側の展望台から見ると、海面付近と上層の空気の温度差が大きいときに起こる蜃気楼の一種で見えない時があるという架空の8つ目の有人島を創造し、老女と少女のやりとりの中で、老女のせつない想いを呼び覚ますというものである。

桟橋の脇には「ようこそ笠岡の島々へ」と書かれた案内板があって、笠岡諸島観光地図が掲げてある。何年前のものだか知らないが、色褪せたイラストにはそれぞれの島の人口が書き入れてあり、ハツ目はいちばん少ない九十九人、五十八世帯とあるが、今はもっと少ないと聞いた。

写真提供　岡山県観光連盟